

魔物に調教された花嫁に精液を流し込め!



拘束され手加減なしに責められ続け墮ちていく

大勢のモンスターが容赦なく襲い掛かるレ○ブ地獄
誰も助けに来ない暗闇で犯され続ける

天空の人妻













「へへへ、今まで俺たち魔族を散々苦しめてきたヤツに
お礼がやっとできるぜ」

「たっぷりかわいがってやるから覚悟するんだなー」

「イヤーはなしてー」

「飢えた連中の中にコイツを放り込んだら
どうなることやら」



「やだ、そんなところダメッ！」

くっくっくっ！」

「ヒヒヒ、どんなに口では嫌がっててもこっちは正直だな

もうこんなに濡れてやがるじゃねえか相当な淫乱女だな」

ビクッ

ビクッ

ビクッ

クク

クク

ビクッ

「こりやアジトに連れ帰って徹底的に調教

してやるわ」

「さあ、さっさと帰ってこー」

クク



「捕まえてきた女尊どおり相当の上玉だな」

「うう、乱暴にしないで……」

「痛い目にあいたくなけりや俺たちの言う事を聞くんだな」

クキ

クキ

「そら、俺たちのを口で御奉仕しな」
「んんん」



「ククク、うまいじゃないか」

「清楚な顔をしながら相当なやり手だな」

「そろ、イクぞー!」

ド
ド
ド
ド
ド

ド
ド
ド

「……んん」

「楽しんであげてくれるー」

「そんなアウクわ」

「イヤー中はためえっー」

んはあめっ

ヒヒヒヒ

ピク

ピク

ビュッ

ドムドム

「ダブル、他の連中もガマンの限界のようだ
たっぴり指手してやるんだな」

「そ、そんな……っ、っ、もう無理……」

「この女たまんねえぜ おらー！こっちもくわえるんだよ！」
「ひっ、うぐう！」

「俺たち魔族に楯突くからこっとうなるんだよ」

チキ

チキ

ズッ

ズッ

パキ

チキチキ

「終わったら次早く変わってくれ」
「次がつかえてるんだからよう」

「うううう・・・」

「もう気を失ってやがる だらしねえ」

「ククク、他愛ないな 所詮は人間のメスだ」

ぐんぐん

「このまま俺たちの肉奴隷として死ぬまでかわいがってやるぜ」
「せろせろ楽しませしぐれ」

ピン

ピン

ピン

「いやー助けてー!」

「グへへへ、叫んだって誰も助けにこねえよ!」

「テメエのダンナはこの先の道端でおねんねしてろせ!」

「久しぶりの女だ ぶち込んでやるぜー!」

ニヤ

ズ

ズ

イ
ズ
ツ

おにゃ

ぶわん

パキ

ゲキ

ズ

「わんわんー 痛ー!」

「すげえ締め付けてまじやがるー 尻穴も痛いわ!」

パン
パン
パン



「あゝ、あひっあひっあひっ—」

「アーン」とオシロリが呻で、「すれてるわっ—」

「ケケケ、この女自分から腰振ってやがるぞ!」

ユサ

もっじ

あひ

ユサ

あひ

あひ

アーン

パツ

パツ

ググ

ズグッ
ググ

アーン

「何回も掛けてセックス漬けにしてやったからな」

「レイプももう俺たちの性処理をする奴隷よ」

「いっつなったらおれもいっつなはせおれをばさる」



ドビッ

ひあ

ドビッ

ああんっ

「うおーすげえ腰使いだ もうイクぞ」
「出してー私の中に入っぱい出してえっー」
んあああああー私もイクラー」

おおおっ

ドビッ
ブッ

「ギトド、俺たちに衝突してた「インソ」もそろそろ終わだな」
「使い物にならなくなったらまた次をみつけければいい」
それまでは「この女で・・・ククク」

「あんーあぁっー」

そんなに激しくしたらおかしくなっちゃうー」

あん♡

ん♡

あ♡

アハハ

アハハ

グチュ

パンツ

ズキ

パンツ

「おらおらーもっと腰を振れー」

「あぁっー奥まで当たってるうー」

「お前は人間の男にはもつたいたい

「ワシの妻として毎晩満足させてやるわー」

「いや、もう許してーお願いー」

「たっぷり中に流し込んでやるぞー」

「ヤダー赤ちゃんデキちゃうっーやめてえー」

ダメエ

ビク

あああ

「まだ終わりではないぞ 次は仰向けになって

足を開け」

「ビクーもう無理よ……」

オオッ

ドク

ドク

ドク

「もうお前はツシものだよっ事を聞かなければ……」
「誰か助けて……」

ビク